名護の人材育成へ寄付

新垣産業70周年 会長誠福氏85歳 夢基金など100万円

【名護】名護市の新垣産業（新垣力太社長）は11月29日、創業70周年と新垣誠福会長の85歳祝いの祝賀会を名護市のホテルゆがふいんおきなわで開いた。約300人が参加した。周年記念事業として、人材育成事業や首里城再建基金などに計100万円を寄付した。

新垣産業の新垣力太社長（3列目左から4人目）と誠福会長（同3人目）から寄付を受けた関係者ら＝11月29日、名護市のホテルゆがふいんおきなわ

首里城再建基金へも

寄付の内訳は部活動の派遣費補助などに使われている名護市の子ども夢基金に50万円、琉球新報社など県内マスコミ各社が取り組む「首里城再建支援のための県民募金」に20万円、「沖縄・名護ジュニアコーラス」に30万円。寄付講座として来年2月に空手の喜友名諒選手を招いた講演会を名護中学校で行う。

同社は1950年に新垣材木店として創業し、不動産事業などを展開してきた。誠福会長は「『誠心誠意』ということや、社員の士気向上、地域貢献などを意識してやってきた」と振り返った。記念事業の寄付については「子どもたちの支援になれば」と話した。

式典に出席した渡具知武豊名護市長は「名護の産業活動への貢献に敬意を表したい」とあいさつした。

スポンジテニス288人競う

名護 県内初の全国大会

スポンジボールテニスを楽しむ参加者ら＝11月23日、名護市の21世紀の森体育館

【名護】名護市大南の21世紀の森体育館で11月23日、「第19回全国スポンジボールテニス大会in沖縄」が開かれた。17都道府県から288人が参加し、それぞれの部門で頂点を目指して汗を流した。同大会の県内開催は初めて。

スポンジボールテニスは1970年ごろにスウェーデンで考案され、英国でスポーツとして確立された。直径約7㌢のウレタン製の軟らかいボールを用い、バドミントン用コートで行う。

北部地域では2010年に今帰仁村で同好会が発足した。沖縄スポンジテニス連合の平宇康代表は「知人の輪を広げることができた。これからの楽しみにつながる大会だった」と振り返った。

大会はフリー（混合ダブルス）、ゴールド（60歳以上混合ダブルス）、シルバー（50歳以上混合ダブルス）の3部門で競われた。結果は次の通り。（敬称略）

【フリー】優勝（熊本県）和久田添広・菖浦谷萌美、▽準優勝（北海道）藤本良太・大西ゆき

【シルバー】優勝（富山県）京井正紀・八つ橋ひろ子▽準優勝（石川県）細川保・細川順子

【ゴールド】優勝（富山県）中野祐一・関原美紀子▽準優勝（京都府）田中克則・田中ゆかり

小林さん（名護小）がピアノ最高賞

九州・山口Jr大会

【名護】11月9、10の両日に那覇市で開かれた第2回九州・山口ジュニアピアノコンクール沖縄大会（九州・山口音楽協会、朝日新聞社主催）で、名護小学校4年の小林楓怜（ふうれん）さん（9）がグランプリに輝いた。大学生も含めた個人や連弾で多数が出場した。小林さんは「大学生もいる中で受賞してうれしい」と喜んだ。

渡具知武豊名護市長（右）を訪問した名護小学校4年の小林楓怜さん＝11月26日、名護市役所

小林さんは4歳のころからピアノを始め、毎日2時間程度自宅などで練習しているという。大会ではロシアの作曲家・プロコフィエフの「10の小品より、前奏曲『ハープ』ハ長調Op.12―7」を演奏した。小学3・4年生の部で最優秀賞に輝き、各学年や中学高校・大学も含めた最優秀賞受賞者の中からグランプリに選出された。審査員による「全体の中で飛び抜けていた」という。

小林さんは両親とともに26日、名護市役所に渡具知武豊市長を訪れ入賞を報告した。渡具知市長は「グランプリを励みに、一生懸命練習してほしい」と激励した。

1月25、26日に福岡県で九州各県の入賞者によるユーイヤーコンサートが開かれ、小林さんも出演する。

声掛け、詐欺被害防ぐ

本部署 ファミマ2人に感謝状

女性客の特殊詐欺被害を防いだ上間美佐枝さん（左）らに山内浩署長から感謝状が渡された贈呈式＝11月29日、本部署

【本部】本部署（山内浩署長）は11月29日、特殊詐欺被害を未然に防いだとしてファミリーマート海洋博公園前店オーナーの上間美佐枝さん（62）と店員の東佳奈子さん（32）に感謝状を贈呈した。

2人は11月7日、携帯電話で会話しながら入店し3万円分の電子マネーを購入しようとした50代の女性客の様子を不審に思い、声を掛けた。女性はネット通販サイトの名を上げ「未払い金がある」と説明。2人は警察に相談するよう伝え、女性が同署に相談したことで被害を免れた。

東さんはこの日贈呈式に出席できなかったが、昨年6月にも60代の男性客の詐欺被害を声掛けで防いでおり、2年連続2度目の表彰となった。

新垣 誠福さん

新垣産業会長

自らの歩み「絆」発刊

会社経営、地域貢献活動など紹介

自分史を記した新垣産業の新垣誠福会長＝11月29日、名護市のホテルゆがふいんおきなわ

【名護】新垣産業（名護市）会長の新垣誠福さん（85）が11月に自分史「絆」を発行した。自分史で会社経営の経緯や、青年会議所（JC）などでの地域貢献活動の取り組みなどを振り返っている。自分史はA5判251㌻で非売品。600部発行。

新垣さんは1935年に名護町大兼久（当時）に生まれた。名護高校・千葉商科大学を経て58年に名護に戻り、家業の新垣材木店（現・新垣産業）に入店した。材木やブロックなど建材から、不動産業などにも事業を拡大して96年まで社長を務めた。

大中区青年会を皮切りに、地域活動にも取り組んできた。65年には名護JCを設立し、67年には理事長に就任した。「皆の仕事が終わる夜に話し合いの場を持ってきた。そこから人の輪ができていった」と振り返る。その後は市商工会副会長、沖縄北部法人会会長などを歴任した。

自分史はこれまで残してきたメモや、口述筆記などで約1年かけて執筆を進めた。タイトルの「絆」は「人を知り、つながりながらやってきた」との思いから名付けた。「これ以上のタイトルはない」と静かに誇った。

美ら島だより

ネットワーク

◆宮古支局 ☎0980(72)3172／FAX0980(72)
◆八重山支局 ☎0980(82)3428／FAX0980(82)
皆様からの情報をお待ちしています。情報提供は電話、ファ